

せんそうしょうか

＃28 戦争唱歌 第1～2編

編纂：文部省（もんぶしょう）

刊行：明治37年（1904） - 38年（1905）



♪ 解題

■ 内容

『戦争唱歌』は1、2編共に、巻頭に緒言として「日露戦争ニ関スル唱歌」を当時の「高等小学校教科用ニ充ルヲ目的」に編集された。

第1編は、日露戦争開戦の明治37年（1904）11月で、翌12月には16刷を数える売れ行きとなった。巻頭歌「ロシヤ征討の歌」では、「討てや討て討てロシヤを討てや わが東洋の平和を乱す 敵ロシヤを討て討て討てや わが帝国の国利を侵す 敵ロシヤを討て討て討てや」とこの戦争の正当性を高らかに歌い上げているが、2月の開戦から10カ月目に入り、延べ8回を数える海軍の旅順口攻撃（その内には、3回に及ぶ旅順港閉塞作戦も含まれる）での苦戦を題材にしている。

第2編は、巻頭に、明治天皇の御製「兒らはみな軍のにはにいではてて翁やひとり山田もるらん」を「捧掲シ児童ヲシテ之ヲ敬唱シテ」「忠勇ノ志氣ヲ發揮セシメンコトヲ期セリ」とあるように、この戦争が国民を総動員した戦争である事を強調している一方、後半の「野戦病院」「戦死者葬送」といった今戦争での犠牲者の多さを象徴するような曲も見られる。

第2編は、第1編発行の翌明治38年3月の発行で、同月中に4刷を数えている。

■ 作者

第1編は、歌人・国文学者の佐佐木信綱の作詞以外は「其他ハ本省吏員ノ作ニ係ル」とある。作曲は「楽譜ハ上真行（うえ・さねゆき）、小山作之

助、楠美恩三郎（くすみ・おんざぶろう）ノ作ニ係リ」が担当し、編集は「上真行ヲシテ整理セシメタルモノナリ」とある。上真行は雅楽家で、宮内省楽部楽長でもあり、多くの唱歌、童謡を作曲した。小山作之助は教育者・作曲家。日本教育音楽協会初代会長（詳しくは人物コラム3（p.22）参照）。楠美恩三郎は、作曲家、東京音楽学校教授であり、上真行、小山作之助らとともに、文部省編『尋常小学唱歌』の作曲委員を務めた。

第2編は、第1編と同じく佐佐木信綱の作詞以外は「餘ハ本省吏員ノ作ニ係ル」とある。作曲は「数名ノ専門家ニ委嘱シテ作ラシメ」編集は「上真行ヲシテ整理セシメタルモノナリ」とある。

■ 収録曲

第1編

ロシア征討の歌/第一回旅順口攻撃及び仁川沖海戦の歌/第四回旅順口攻撃の歌（佐佐木信綱 作詞）/第七回旅順口攻撃の歌/九連城占領の歌（佐佐木信綱 作詞）/閉塞隊の歌（佐佐木信綱 作詞）/南山占領の歌（佐佐木信綱 作詞）/得利寺附近戦争の歌/旅順港外海戦の歌（佐佐木信綱 作詞）

第2編

[明治天皇] 御製/兵士の門出（佐佐木信綱 作詞）/常陸丸（佐佐木信綱 作詞）/輜重輸卒（佐佐木信綱 作詞）/8月10日の海戦/蔚山沖の海戦（佐佐木信綱 作詞）/露宮の夢（佐佐木信綱 作詞）/遼陽占領/野戦病院/戦死者葬送

♪ 類似の唱歌集

- ・『戦争唱歌』大和田建樹作歌 田村虎蔵作曲 秀英舎 1903 [SH767.6/77]

♪ 参考文献

- ・細川周平「日露戦争期の歌謡にみる愛国心と敵愾心：軍歌からパロディまで」（『Interpretations of Japanese culture Interpretations of Japanese culture views from Russia and Japan views from Russia and Japan 日本文化の解釈：ロシアと日本からの視点』国際日本文化研究センター 2009）

[Y210.04/2]

- ・『歌う国民』渡辺裕著 中央公論新社 2010 [767.7/238]
- ・『日本の軍歌：国民的音楽の歴史』辻田真佐憲著 幻冬舎 2014 [767.6/269]
- ・『戦争が遺した歌』長田暁二著 全音楽譜出版社 2015 [767.8/535]
- ・『文部省の研究』辻田真佐憲著 文藝春秋 2017 [317.27/7]
- ・『唱歌教育の展開に関する実証的研究』嶋田由美著 学文社 2018

[375.76/10]

- ・『唱歌の社会史』伊藤公雄・河津聖恵ほか著 メディアアイランド 2018

[767.7/252]